



## 新天地に挑む君へ

通勤中の別大国道から見える高崎山にも山桜が色づき、水玉模様のようになんとも美しい。そんな事を思いながらキャンパスに着くと、初々しい感じのする青年とその家族が校門にあるソメイヨシノの下で写真を撮っていた。話しかけるとやはり新入生の家族で下見にやってきた

という。「何か聞いておきたい事がありますか」と問いかけると、期待と不安から生じる質問がたくさんきたので私なりに答えておいた。

誰しもが、これまでとは違う生活環境で生きることによる不安を感じる。「自分はうまくやれるだろうか」と考え込み、自信を無くすことも多いと思う。自分には無理だと。初めはうまくやれなくてもよいのだ。馬や牛は生まれ落ちた瞬間から自分の脚で歩く事ができるが、人間は違う。聞くところによると動物の中で一番未熟で生まれてくるのが人間らしいではないか。

ではその未熟で人の助けが要る時間を、われわれ人間は無駄に過ごしているのかと言えばそうではないはずだ。多くの他者から守られ、生かされるという愛を受ける経験があるからこそ、われわれは社会をつくることができた。だから初めは、失敗を恐れずにたくさんの人に助けられ、生かされなさい。そこでため込まれた愛はきっと未来の後輩へ向けられる。そうやってわれわれの未熟さが良い社会をつくるのだ。

付け加えて言うと、身近に咲くソメイヨシノだけで満足せず、いろいろな場所に咲くさま

ざまな姿かたちの山桜を見学に出掛けてほしい。自分のフィールドを広げ、多くと出会う事が新しい学びへの近道なのだから。

そんな話をしたが、少しは不安を取り除けただろうか。この季節は至る所でこのような葛藤が生まれる。受け手側の私たちも心して臨みたいものだ。新しい出会いの中にある初々しさこそ、新しい時代をつくる源なのだから。

---

たかみ・だいすけ 日本文理大人間力育成センター長。専門は初年次教育、ユースワーク、ボランティア論。別府市在住。40歳。